

# 令和8年度相模原市協働事業提案制度 公開事業報告会

## もくじ

P 1

事業評価及び公開事業報告会の方法

P 2

公開事業報告会スケジュール

P 3

自己評価指標等の一覧

P 5

各事業のふりかえりシート

日時 令和8年6月20日（土）午前9時5分～

会場 けやき会館 2階 大研修室（会場）

# 事業評価及び公開事業報告会の方法

## 1 事業報告会の対象となる事業

協働事業提案制度を活用しての事業実施は最大3年度まで可能で、令和6年度は5事業が行われました。このうち、今回の事業報告会で成果等を発表するのは次に該当する事業です。

○令和7年度が最終年度となるもの（5事業）

○令和8年度が最終年度となるもの（1事業）

※令和8年度が1年目もしくは2年目で次年度継続を希望する事業の進捗等については、10月頃開催予定の中間ヒアリングで報告します。

## 2 報告書（ふりかえりシート）の作成

事業報告会に先立って、協働事業の過程や成果を自己評価する報告書（ふりかえりシート）を、実施団体及び事業担当課双方の合意により作成していただきました。

## 3 評価の数値化等

ふりかえりシートには、事業の概要のほか、事業の達成度などを記号化・数値化して示してあります。

### 自己評価指標

「パートナーシップの原則」、「取り組みにあたっての関係性のふりかえり」、「事業の妥当性と効果」、「協働したことの効果」の4区分について、A（80%以上できた）、B（60%以上できた）、C（十分にできなかった）の3段階で評価を行いました。

### 自己評価点

A～Cで評価した4区分をさらに19に細分化し、a・b・c・dの4段階でチェックのうえ、a＝4点、b＝3点、c＝2点、d＝1点と置き換え、76点満点で点数化しました。

## 4 報告会の方法

1事業あたりの事業結果報告は15分間です。それを受けて、審査会による質疑応答（8分程度）を行います。

# 令和8年度 公開事業報告会スケジュール

日時 令和8年6月20日(土)  
午前9時05分～11時40分  
会場 けやき会館 2階 大研修室

時間	区分	内容	事業概要	団体名	事業担当課	最終年度
9:05	開会					
9:10	市民	里山保全・再生と活用モデル検討事業	森林面積が6割の相模原市には、街に接する里山林が多数あるが、その活用が不十分のため、手入れや再生が行き届かない里山林が多い。そのために、里山林の積極的な活用を通して、その保全と再生を図る。	特定非営利活動法人自遊クラブ	森林政策課	令和7年度
9:35	市民	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業	現在、相模原市には、シビックプライドを醸成するための代表的な教育プログラムはなく、市の魅力を「パズルとクイズカード」で遊びながら学べ、シビックプライドを涵養する教育プログラム（＝ゲーム）を開発する。	相模原市印刷広告協同組合	シティプロモーション戦略課	令和7年度
10:00	市民	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業	野生鳥獣による農作物の被害の状況やその対策を周知すると共に、野生動物の命の尊厳を守り、野生動物と人間との共生の在り方について市民と共に考える場を作り、生物多様性の保全と理解を促進する。	野生動物との共生の会	緑区役所区政策課	令和7年度
10:25	市民	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bikeツアーの造成	中山間地域への入口（ゲート）に位置する「城山自然の家」を観光ゲートとし、相模原市緑区の城山エリアにおける特徴的な観光である自然散策をe-bikeツアーと組み合わせることでアクティビティ要素を加えた体験型観光に昇華し、当該エリアが抱えている課題（二次交通、来訪者属性の偏り、認知度の低さ、観光資源の未成熟さなど）の解決を図る目玉コンテンツとして造成する。	城山観光協会	観光政策課、城山まちづくりセンター	令和7年度
10:50	市民	里山の自然を未来へつなげるための担い手育成事業	藤野地区を含む中山間地域では、少子高齢化が進み、これまで地域が担ってきた活動が困難になってきている。将来に向けて、良好な里山の環境を保全するための人材を育成するため、体験型のワークショップを開催し、中央区や南区、近隣から広く参加者を集める。参加者からボランティアを確保し、将来の担い手を発掘していく。	NPO法人ふじの里山くらぶ	藤野まちづくりセンター	令和7年度
11:15	市民	「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」	積極的な取材・調査によって「ユニバーサル通信」における事例・情報紹介の紙面を豊かにし、発行頻度を増やし、配布対象を官民・市民に拡大して、市民のUD理解を深めて、共生社会の礎となる意識形成に資する。	特定非営利活動法人ここずっと	地域包括ケア推進課	令和8年度
11:40	閉会					

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

①	事業の名称	里山保全・再生と活用のモデル検討事業																			
	事業実施団体	特定非営利活動法人自遊クラブ																			
	昨年度最終 事業担当課	森林政策課																			
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった) 自己評価点(a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																					
評価項目	パートナーシップの原則				互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性						合計	
自己評価指標	A				A				A					A							
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	76

②	事業の名称	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業																		
	事業実施団体	相模原市印刷広告協同組合																		
	昨年度最終 事業担当課	シティプロモーション戦略課																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった) 自己評価点(a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則				互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性						合計
自己評価指標	A				A				A					A						
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	74

③	事業の名称	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業																		
	事業実施団体	野生動物との共生の会																		
	昨年度最終 事業担当課	緑区役所区政策課																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった) 自己評価点(a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則				互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性						合計
自己評価指標	A				A				A					A						
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	3	3	3	4	4	4	3	3	4	4	4	3	3	4	4	69

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧




④	事業の名称	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bike ツアーの造成																		
	事業実施団体	城山観光協会																		
	昨年度最終 事業担当課	観光政策課、城山まちづくりセンター																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった) 自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則				互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性						合計
自己評価指標	A				A				B					A						
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	71
⑤	事業の名称	里山の自然を未来へつなげるための担い手育成事業																		
	事業実施団体	NPO法人ふじの里山くらぶ																		
	昨年度最終 事業担当課	藤野まちづくりセンター																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった) 自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則				互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性						合計
自己評価指標	A				A				A					B						
No	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
自己評価点	4	4	4	4	2	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	3	1	4	69
⑥	事業の名称	「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」																		
	事業実施団体	特定非営利活動法人ここずっと																		
	今年度最終 事業担当課	地域包括ケア推進課																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった) 自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則				互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性						合計
自己評価指標	B				B				B					A						
No	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
自己評価点	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3	4	3	62

# 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください⇒		1																																																									
事業の名称	里山保全・再生と活用のモデル検討事業																																																											
団体の名称	特定非営利活動法人自遊クラブ																																																											
事業担当課	森林政策課																																																											
事業の概要	森林面積が6割の相模原市には、街に接する里山林が多数あるが、その活用が不十分のため、手入れや再生が行き届かない里山林が多い。そのために、里山林の積極的な活用を通して、その保全と再生を図る。																																																											
具体的な取組みの状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">実施年度</th> <th colspan="2">近しい里山向森林活用</th> <th colspan="2">総向森林活用</th> <th colspan="2">企業向森林活用</th> <th rowspan="2">木材活用</th> <th rowspan="2">産物加工等</th> <th rowspan="2">再生</th> <th rowspan="2">その他</th> </tr> <tr> <th>Forest West</th> <th>相模原市域内</th> <th>Forest East</th> <th>Forest North</th> <th>Forest South</th> <th>Forest West</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和6年度</td> <td>2回 110人</td> <td></td> <td>1回 8人</td> <td>1回 3人</td> <td>2回 21人</td> <td>2回 10人</td> <td>2回 11人</td> <td></td> <td></td> <td>育生率 2回 80% 3回 79%</td> <td>市民イベント 3回 220人</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td></td> <td>4回 15人</td> <td></td> <td></td> <td>2回 22人</td> <td>2回 13人</td> <td>2回 23人</td> <td></td> <td></td> <td>育生率 2回 82% 3回 63%</td> <td>市民イベント 4回 380人</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>令和7年度</td> <td></td> <td></td> <td>4回 50人</td> <td></td> <td>1回 19人</td> <td>2回 29人</td> <td></td> <td>1回 1人</td> <td></td> <td>育生率 2回 85% 3回 53%</td> <td>市民イベント 3回 330人</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※人数はイベント参加人数</p>				実施年度	近しい里山向森林活用		総向森林活用		企業向森林活用		木材活用	産物加工等	再生	その他	Forest West	相模原市域内	Forest East	Forest North	Forest South	Forest West	令和6年度	2回 110人		1回 8人	1回 3人	2回 21人	2回 10人	2回 11人			育生率 2回 80% 3回 79%	市民イベント 3回 220人	1回	令和6年度		4回 15人			2回 22人	2回 13人	2回 23人			育生率 2回 82% 3回 63%	市民イベント 4回 380人	1回	令和7年度			4回 50人		1回 19人	2回 29人		1回 1人		育生率 2回 85% 3回 53%	市民イベント 3回 330人	1回
実施年度	近しい里山向森林活用		総向森林活用			企業向森林活用		木材活用	産物加工等	再生	その他																																																	
	Forest West	相模原市域内	Forest East	Forest North	Forest South	Forest West																																																						
令和6年度	2回 110人		1回 8人	1回 3人	2回 21人	2回 10人	2回 11人			育生率 2回 80% 3回 79%	市民イベント 3回 220人	1回																																																
令和6年度		4回 15人			2回 22人	2回 13人	2回 23人			育生率 2回 82% 3回 63%	市民イベント 4回 380人	1回																																																
令和7年度			4回 50人		1回 19人	2回 29人		1回 1人		育生率 2回 85% 3回 53%	市民イベント 3回 330人	1回																																																
役割分担	<p><b>実施団体の主な役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森のサービス機能は多様で一つの団体ではカバー出来ないため、3団体協働で始め3年目は4団体協働で多様な活動を行った。</li> <li>・ 各団体は強みを活かして、活動内容の企画・運営・見直し・再運営を行った。</li> <li>・ 自遊クラブは、協働団体のまとめと調整を行った。</li> <li>・ 市民主催の「里山体験講座」に協力し、受講終了者の受入れやCSR連携等を行った。</li> </ul> <p><b>市の主な役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 負担金により、事業費に対する支援を行った。</li> <li>・ 地域・関係機関などとの連絡・調整を行った。</li> <li>・ 情報提供及びイベントの周知広報を行った。</li> </ul>																																																											
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児・小学生・家族・女性・企業等の多様なニーズに対応するアクティビティが実施できた。</li> <li>・ 各アクティビティの満足度は高く、リピーターも一定数できた。</li> <li>・ 森林のユンボによる道づくりを望む市民ニーズに対応しスキルアップもできた。</li> <li>・ ナラ枯れや間伐した丸太を運搬・搬出して活用する市民ニーズに対応しスキルアップもできた。</li> <li>・ 間伐丸太を林内で製材してデッキを作り活用する市民ニーズに対応しスキルアップもできた。</li> </ul> <p>行政の効率化につながった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当市が直接関与することができない私有林について、新たな利活用の可能性を見出すとともに、その事業収益で里山林の整備を行うといった新たな循環形態の可能性を示した。</li> <li>・ 当市が策定する「さがみはら森林ビジョン」に～</li> <li>・ もって、当市の森林政策における森林保全に貢献した。</li> </ul>																																																											
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p> <p>「来年度以降の方向性」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林ESDは保育園との取り組みや、小学生対象の森案内ソフトの開発等を進める。</li> <li>・ 里山アクティビティは企業等との連携をメインに展開していく。</li> <li>・ 里山保全是団体自立と副業化を目指した活動をしていく。</li> </ul>																																																											
3年間の総事業費と年度ごと内訳	10,790,000 円	年度	年度	年度																																																								
		3,195,000円	3,941,000円	3,654,000円																																																								
上記のうち市負担金	8,540,000 円	年度	年度	年度																																																								
		2,682,000円	2,923,000円	2,449,000円																																																								

事業の名称	里山保全・再生と活用のモデル検討事業
-------	--------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・		はい			いいえ
協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	市以外に4団体の協働で、市民ニーズに応える多様な活動と成果が得られた。	A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・		はい			いいえ
お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	4団体と市でつちざわの森の特性を生かした協働事業を進め、同じ場所で行われている市主催の「里山体験講座」の運営にも連携・協力して成果を得た。	A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！		はい			いいえ
(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	つちざわの森での取り組みと成果は、他の里山でも活かせるモデル事業になった。又、各団体は新たな課題が見つかり、その取り組みを始めた。	A			

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	森の幅広く奥深いサービス機能を活かすには多様な団体が協働しないと出来ない事業であり、一つのサンプルになった。 これにより、自遊クラブには多くの新メンバーが加わってきている。	A			

E : 20 協働のポイント-1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
4団体+行政で多様な活動と成果が得られた。	当市としても、長年課題であった里山林の保全や利活用を検討するためのモデルケースとして事業実施ができました。連携体制を構築していただいたことに感謝いたします。

F : 21 協働のポイント-2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
里山保全と活用への関心と参加を高めるのは、個人だけではなく、企業や学校等への働きかけと予算確保が必要。	事業内容は革新的で、里山林の利活用にも可能性を示したものの、事業収益構造やキャッシュフローについて、課題があるものと考えます。 また、事業の周知広報についても、改善の余地があるものと考えます。

G : 22 協働のポイント-3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
多様な団体と人との協働で、多様な活動と成果が得られます。	当市では、「いきいきとした人と森林の関わり」の実現を目指し、様々な施策を実施しています。森林の利活用には多くの可能性が眠っていると考えますので、ぜひ多様な団体に、協働提案事業をはじめとする様々な活動を、相模原の森林で行っていただきたいと思っております。

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
多くの課題に協働して取り組んで行きたい。	当市森林政策において、私有林所有者や森林活動団体との連携は欠かせません。 当団体は、里山林の管理の重要性を強く認識し、所有者や関係団体との連携にもきめ細やかに対応してきました。事業担当課としても、引き続き連携を深めていけるよう、協働のあり方を検討してまいります。

I : 24 取組の様子 (写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

里山ESD (小学生の森林体験)

年間の環境に関する総合学習の中で、間伐と植栽とLEAFプログラムの森林体験をした。  
(写真は間伐時のロープ引きの様子)

この後の授業では、児童提案で時計や椅子の物置板など、校内に設置する6種類の木工品を地域材を使って自分達で作った。

写真添付欄



種類を

森林浴と里山リトリート

五感を使って森を楽しむことができるように、森林浴ファシリテーターが案内人になる。情報過多、思考優位、ストレスフルな現代人にとって、癒し、リトリート、マインドフルネスなど、心身の健康やリフレッシュの場として森を活用した。

写真添付欄



コメント記載欄

グリーンウッドワーク

つちざわの森の特性を活かし、樹木観察を通じて生きた樹木への理解を高め、グリーンウッドワークで生木を加工する樹木利用を経験する事を通して、森活用を体験してもらった。  
(写真は専用の加工台)

写真添付欄



コメント記載欄

運搬路(軽トラ道)の作設

里山林の整備と活用を進めるために、自分達でコンボを借りて軽トラ道を作設した。(2年間で300m)

並行して道づくり研修会、コンボ特別教育講習会などを実施しているので、その受講生達が今後の里山整備に関わっていく。

## 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください⇒		2		
事業の名称	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業				
団体の名称	相模原市印刷広告協同組合				
事業担当課	シティプロモーション戦略課				
事業の概要	現在、相模原市には、シビックプライドを醸成するための代表的な教育プログラムはなく、市の魅力を「パズルとクイズカード」で遊びながら学べ、シビックプライドを涵養する教育プログラム（＝ゲーム）を開発する。				
具体的な取組みの状況	<p>(1) シビックプライド向上ゲームの開発（令和5年度）</p> <p>①サイト制作（さがみん教室情報局）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「クイズカード」の電子ブックやさがみん教室の教材を公開</li> <li>・サイト内で参加者が作った各地区のクイズを募集</li> </ul> <p>②クイズカードの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初級編：小学校低学年向け、上級編：小学校高学年以上向け（大人含む）</li> </ul> <p>③クイズ創作ノートの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区ごとに、地図・参考キーワード・クイズ作成フォーマットにより構成</li> <li>・担当課や公民館等と連携し、地図・参考キーワードを精査</li> </ul> <p>(2) 出前授業の周知・出前授業の実施（令和6年度）</p> <p>シビックプライド向上ゲームの出前授業を周知するため、チラシ（A4：1500枚）・ポスター（A3：150枚）を作成し、市内小中学校や公民館に配布した。また、令和6年4月10日には報道機関に対して、出前授業開催に係る情報提供を行い、令和6年5月9日にはタウンニュース（さがみはら3区版）に出前授業に関する記事が掲載された。</p> <p>初年度の出前授業には、15団体516名が参加した。</p> <p>令和6年5月：中央小（小4全3クラス75名）、6月：藤野北小（小3全1クラス2名）、ひよこ児童クラブ（小4～6：9名）、田名小（小3全4クラス87名）、7月：いきいきサロンひばり会（すみれ自治会）（60代～80代15名）、中央小（小6全3クラス76名）、清新小（小3全4クラス113名）、鶴ヶ丘団地高齢者クラブパープル会（60代～80代15名）、8月：児童クラブいちばん星（小1～5、大人22名）、9月あおぞら学舎（小中学生7名）、津久井中央小学校（小3＋保護者34名）、10月：上鶴間公民館（60歳以上27名）、サロン畑ヶ中（畑ヶ中自治会）（70歳以上9名）、麻溝公園SAGAMIHARA サタママーケット（5名）、11月：青少年指導委員（藤野地区）（20名）</p> <p>(3) 出前授業の周知・出前授業の実施（令和7年度）</p> <p>出前授業2年目（最終年度）の告知は、チラシ（A4：500枚）を作成し、小学校・公民館・地域センター・図書館・市関連施設に配布。また、ポスター（A3：2500枚）を作成し、自治会の掲示板にて掲出した。</p> <p>参加者は、13団体657名が参加した。前年度より141名増。令和6・7年合計で1173名の参加となった。</p> <p>令和7年6月：広陵小（小3クラス26名）、7月：向陽小（小3全5クラス130名）、8月：放課後児童クラブ・コードモテラス（小1～5、10名）、9月：上溝小（小3全3クラス105名）、相原小（小3全3クラス80名＋保護者見学75名）、上鶴間公民館成入学級（70～80代32名）、10月：中央公民館『悠々学級』（70～80代33名）、相模原市大野中地区社会福祉協議会ふるさとまつりに参加する子供たちがブース内で遊ぶグッズ（10枚）、俳人協会神奈川県支部（県支部の支部長ほか支部役員9名）、11月：作の口小（小5全クラス103名）、12月：大沢地区健康づくり普及員（60代以上9名）、令和8年1月：青少年指導委員連絡協議会〔窓口：こども・若者応援課〕（青少年指導員86名）、2月：鶴野森中〔シティプロモーション戦略課出前授業内〕（中1、29名）</p>				
役割分担	<p>実施団体の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コンテンツの開発</li> <li>○出前授業の実施</li> </ul> <p>市の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コンテンツのクオリティチェック</li> <li>○向上ゲームと出前授業の周知</li> </ul>				
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点</p> <p>令和6・7年度シビックプライド向上ゲームの参加者にアンケートを実施した結果、Q1. 相模原のパズルとクイズは①楽しかったと回答が、991/1163＝85.2%、Q2. 相模原のことをもっと知りたく①だった、②少なかったとの回答が、①766＋②284＝1050/1163＝90.3%となり、参加者の85%がシビックプライド向上ゲームを楽しみ、9割の方に、相模原に興味をもっていただくことができた。</p> <p>行政の効率化につながった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シビックプライド向上ゲームの出前授業を実施したことで、参加者から相模原市の魅力を発見するきっかけとなったとの意見もあり、シビックプライドの醸成に寄与した。</li> <li>・シビックプライド向上ゲームの教材（クイズノート・クイズカード）について、使いやすさやデザインなどに関する知見が団体側にあり、クオリティの高い教材を制作することができた。</li> </ul>				
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」</p> <p>今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相模原市印刷広告協同組合のSDGs推進・シビックプライド向上委員会の事業として継続実施の予定</li> <li>・クラウドファンディング等の資金調達が可能になった場合は、相模原市のICT教育のサポートができるように「アプリゲーム化」を行ないスマホ・タブレット・PC上で「パズルとクイズ」によるシビックプライドを涵養するゲームに展開したい。</li> <li>・シビックプライド向上ゲームがいつでも体験できるよう、各公民館に「学習パズルぴーしーず」を配布する。</li> </ul>				
3年間の総事業費と年度ごと内訳	885,000	円	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			730,000円	55,000円	100,000円
上記のうち市負担金	764,000	円	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			650,000円	44,000円	70,000円

事業の名称	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業
-------	---

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

<b>A：協働の基本原則・・・</b> 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ <i>(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))</i>		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
<b>B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・</b> お互いの関係性についてお尋ねします！ <i>(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))</i>		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
<b>C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！</b> <i>(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))</i>		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだだったと思いますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだだったと思いますか。(費用対効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価  <b>A</b>			

E : 20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
相模原市を学ぶためのパズルとクイズであるため、公共性の高いクイズや地図の制作には、市と協働が必須で実際に教材としてクオリティの高い内容となった。出前授業は、市との協働事業のため安心して参加できるので良かった。	出前授業の教材となる「クイズカード」「クイズノート」の制作にあたり、使いやすさやデザインなどに関する知見が団体側にあり、クオリティの高い教材を制作することができた。

F : 21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
定期的な打合せも実施でき特にございません。	適宜打ち合わせを実施しており、団体との関係も良好であったため、団体側に求める改善点はない。

G : 22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
「相模原市が好きで、より良くしたい」という思いがあれば、必ず協働事業はうまくいきます!	市民(団体)と行政が協働して事業を行うことで、市民側にも行政側にもメリットがあるため、ぜひチャレンジしていただきたい。

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
今後も組合の活動として事業を継続し、今回の協働事業が事例として他市や都道府県等にもPRできる活動につなげたいと考えております。	シビックプライドを向上に寄与する取組であるため、引き続き事業を継続して行っていただきたい。

1 : 24 取組の様子 (写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

作の口小学校では、体育館で全5年生103名を1回で実施。高学年以上であれば100名程度でも1回で実施可能であることが分かった。

写真添付欄



コメント記載欄

令和6年度では身体的課題もあり、パズルとクイズについて来れない場合があったので、改善を行ない、高齢者でも楽しめるように進行を工夫し、公民館や自治会のサロンなど、高齢者を対象にも実施。上鶴間公民館、中央公民館の成人学級では、ともに参加者の90%以上がシビックプライド向上ゲームを楽しみ、100%が相模原に興味を持つ結果となった。

写真添付欄



コメント記載欄

令和6年度に藤野地区の青少年指導員の方々に参加いただき好評で、令和7年度は、こども・若者応援課を窓口に、青少年指導員連絡協議会から申込みがあり全青少年指導員の方々に実施。2日に分けて、86名が参加。ゲーム内で行なうクイズのクオリティーが高く、本ゲームの目的にとても近い回となった。アンケートの反応もよく、継続的に実施できることが望ましい。

写真添付欄



コメント記載欄

鶴野森中学校1年生に対するシティプロモーション戦略課の出前授業内で、シビックプライド向上ゲームを実施。参加者の93.1%がシビックプライド向上ゲームを楽しみ、96.6%が相模原に興味を持つ結果となった。中学生にも効果があることが分かった。

## 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください⇒	3
事業の名称	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業	
団体の名称	野生動物との共生の会	
事業担当課	緑区役所区政策課	
事業の概要	野生鳥獣による農作物の被害の状況やその対策を周知すると共に、野生動物の命の尊厳を守り、野生動物と人間との共生の在り方について市民と共に考える場を作り、生物多様性の保全と理解を促進する。	
具体的な取組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相模原市で捕獲したシカ、イノシシの皮を使ったキーホルダーの制作</li> <li>・ パネルを使った説明 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農作物の被害状況</li> <li>2. 農作物の被害に対する取り組みや対策</li> <li>3. 狩猟とは？有害鳥獣とは？</li> <li>4. 肉や皮（生物資源）の利活用方法</li> <li>5. 「野生動物との共生の会」の活動</li> <li>6. シカ・イノシシ捕獲マップ</li> <li>7. 獣見たよMAPの掲示</li> </ol> </li> </ul> <p>野生動物の捕獲の必要性、生物多様性や適正管理、野生動物の命の尊厳や肉や皮の利活用などを学ぶ機会を提供した。 野生動物と人間との共生の在り方について、相模原市民の身近な課題として、地域と一緒に考えた。</p>	
役割分担	実施団体の主な役割	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農作物の被害状況や対策、有害鳥獣捕獲などの説明</li> <li>2. 肉や皮（生物資源）の利活用方法の説明</li> <li>3. 命に関わる繊細な問題を丁寧に説明</li> <li>4. 革小物作り体験の場の提供</li> </ol>	
事業効果	市の主な役割	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 革小物作り体験に必要な革の原料や備品の補助</li> <li>2. 市営施設の場所の提供</li> <li>3. 市の保有する基礎的な情報（統計など）の提供</li> <li>4. 広報</li> <li>5. 客観的な意見や助言（公共性の維持）</li> </ol>	
事業終了後の方向性等	市民ニーズに対応できた点	
	<p>多くの市民の方に知られていないこと（農作物の被害状況や対策など）を学んでもらい、興味を持ってもらえたことは非常に価値のあることと思われる。また、革小物づくり体験では、実際に革に触れ楽しんで貰いながら、命について考えるきっかけや、野生動物と人間との共生のあり方を考えてもらえる場の提供ができ、非常に有意義な活動であった。</p>	
事業終了後の方向性等	行政の効率化につながった点	
	<p>鳥獣対策という人間の生活と動物の命に関わる課題に対し、自己防除や地域で包括的に対策していくことの重要性について、市民の理解促進を進めたことで、行政のみで対応することの負担が軽減された。</p>	
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施をした各所で好評であったが、特に相模原市立博物館では参加者や学芸員から猛烈な支持をいただき、継続することとなりました。</li> <li>・ 協働事業以前から継続している鹿猪肉（ジビエ）を使った料理の試食等を含め、体験できる学びの場を引き続き提供していく。</li> </ul>	

3年間の総事業費と 年度ごと内訳	2,552,173 円	7 年度	6 年度	5 年度
		820000円	912100円	820073円
上記のうち市負担金	2,099,000 円	7 年度	6 年度	5 年度
		613000円	743000円	743000円

事業の名称	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業
-------	----------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

<b>A：協働の基本原則・・・</b> 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
<b>B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・</b> お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
<b>C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！</b> (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったか。(事業の必要性)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだったか。(費用対効果)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思えますか。(将来性・発展性)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。 (協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。 (役割分担の妥当性)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。 (相乗効果)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。 (他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。 (市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			

E：20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
1年前、2年前に参加していただいた参加者が、「とても勉強になったから、改めて参加しました」と1年以上経っても覚えていて、参加いただいた方が数名いらっしゃいました。印象に残る内容だったとの事で、とても嬉しく思いました。	市、団体のそれぞれのノウハウを生かしながら、パネルや革小物づくりを通して、市民に野生鳥獣被害の現状や命の尊さを身近なこととして伝えることができた。

F：21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
前年を参考に参加人数を想定しましたが、アリオ橋本での開催がお盆の時期からずれ、想定人数に届きませんでした。	団体の取り組みを周知するための工夫や実施場所の提供及び協議を密に行うことが課題であった。

G：22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市民が参加しやすいようにアレンジすることが大切だと思います。	地域・市民にとって身近な課題を取り上げ、実際に自分自身で体験する活動を充実してほしい。

H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
参加者から害獣への対策について色々質問がありました。実際に困っている声も多くありましたので、市民のお力になっていただけることを期待しております。	協働事業終了後も、知識やノウハウの共有を行い、今後も継続して野生鳥獣に関する事業について、協力して取り組んでいただきたい。

I : 24 取組の様子 (写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

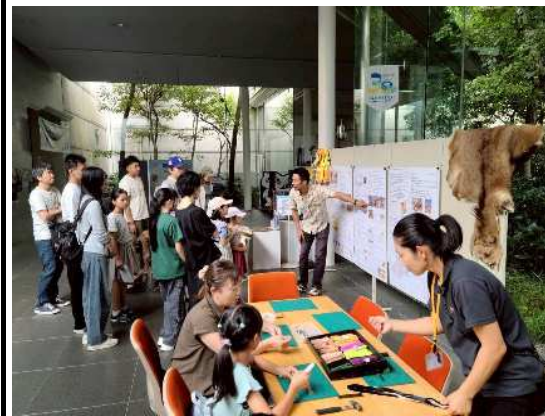
写真添付欄



コメント記載欄

アリオ橋本 での様子

写真添付欄



コメント記載欄

相模原市立博物館 での様子

写真添付欄



コメント記載欄

制作する 鹿革キーホルダー

写真添付欄



コメント記載欄

はく製・角・毛皮・くくり罟 展示

## 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください⇒	4
事業の名称	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bikeツアーの造成	
団体の名称	城山観光協会	
事業担当課	観光政策課、城山まちづくりセンター	
事業の概要	中山間地域への入口（ゲート）に位置する「城山自然の家」を観光ゲートとし、相模原市緑区の城山エリアにおける特徴的な観光である自然散策をe-bikeツアーと組み合わせることでアクティビティ要素を加えた体験型観光に昇華し、当該エリアが抱えている課題（二次交通、来訪者属性の偏り、認知度の低さ、観光資源の未成熟さなど）の解決を図る目玉コンテンツとして造成する。	
具体的な取組みの状況	<p>1. 「城山自然の家」</p> <p>①「城山自然の家」の有効活用 令和5年6月から開所し、観光案内を開始。10月からは地場の野菜販売を開始。6月からの来場者数は840名。②令和6年度はホームページや地域情報誌、タウンニュースなどを通じてPR活動を積極的に展開、また野菜納入業者を1社追加し3社となり販売量が増加した。また、しいたけ販売を開始したことにより大幅に収益が増加した。一方来場者数は延べ2400人と大幅に増加した。③令和7年度は、10月に河内椎茸園を城山小松地区に誘致して「城山おいしいたけ園」を設立し11月から生産し自然の家での販売を開始した。新聞やタウンニュース、地域情報誌に紹介され、またイベントでの出店販売により地名度が向上し販売が好調である。城山観光協会は広報と営業を担当し、収益が向上し自己資金の確保の一助となっている。</p> <p>2. 「e-bikeツアー」</p> <p>① 令和5年度のe-bikeツアーは、上期中にツアーのコンセプト、開催時期、コース設定、委託業者との契約等を決定し、また㈱あさひさんの協力をいただき9月に試乗会、11月と3月にはモニターツアーを行った。②令和6年度は自力でツアーが出来るように地域でのツアーガイドの養成を積極的に進め、9月にツアーガイド養成講座、10月にはガイド養成試乗会を実施した。また12月には関係者による2,000円のモニターツアー、3月には参加者を一般公募し4,000円のモニターツアーを実施した。2回の試乗会、2回のモニターツアーを通じて自前のツアーガイドや観光ガイドが育ってきたほか、コース選定、運営方法、役割分担、SNSを通じての募集、広報活動も計画を1年前倒しし、自走できる体制が整ってきた。③令和7年度はツアーガイドが育ちサイクルベースあさひよりの支援が無くても自前でツアーの運営が可能となり、6月・12月・2月にモニターツアーを行った。また自前のe-bikeが5台となり、レンタルしなくてもガイド講習や試乗会を開催できるようになった。</p>	
役割分担	<p>実施団体の主な役割</p> <p>1. 「城山自然の家」</p> <p>①観光案内の実施と憩いの場を提供 ②HP、SNS、地域情報誌等を通じて広報活動 ③地場産の野菜や工芸品の販売 ④e-bikeツアーの事務、会計業務。</p> <p>2. e-bikeツアー</p> <p>①ツアーの実施計画、ツアーの募集、ツアーの運営、e-bikeのレンタル及び搬送、ツアーガイド及び観光ガイドの育成、ボランティアの確保、e-bike検討部会の定期開催。</p> <p>市の主な役割</p> <p>1. 「城山自然の家」</p> <p>①「城山自然の家」の維持管理 ②「城山自然の家」の賃貸契約</p> <p>2. 「e-bikeツアー」</p> <p>①関係機関調整(相模原市及び近隣都市) ②㈱あさひさんとの業務委託契約作成 ③ツアー実施計画&amp;予算作成支援 ④ツアー運営及び広報支援(チラシ・ポスター作成・配布等)</p>	
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点</p> <p>1. 「城山自然の家」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地場野菜の納入業者の拡大、しいたけ販売の開始などにより、来場者を確実に増やすことができた。</li> <li>来場者数の推移：（令和5年度）840人 （令和6年度）2400人</li> <li>・ホームページや地域情報誌、タウンニュースなどのPR活動により、市民に情報を届けることができた。</li> </ul> <p>2 「e-bikeツアー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自力でツアーができるよう、養成講座、養成試乗会を通じてツアーガイドを養成した。</li> </ul> <p>行政の効率化につながった点</p> <p>相模原市の魅力を効果的に発信することができた。</p> <p>e-bikeという体験型のコンテンツができたことにより、観光客の選択肢を増やすことができた。</p>	

事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」          今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p> <p>1. 「城山自然の家」          城山自然の家の3年目以降の運営については、「城山自然の家」の有償借用、諸経費、人件費等を自費で賄うことを考えるとハードルが高い。現在河内椎茸園を誘致し地元城山地区でこの秋からしいたけ栽培・販売を開始する計画である。城山観光協会が推奨し城山の名産として販売協力することで収益を確保し、「城山自然の家」の維持管理を独力で出来る様努めて行く。</p> <p>2. 「e-bikeツアー」          モニターツアーの参加費について、持続可能な金額設定を検討する必要がある。金額が高くても参加していただけるよう付加価値を付け、魅力ある内容とコース設定が必須である。また、新聞で取り上げてもらった時には募集が多く、出来なかった時には少ないという傾向がある。チラシやポスターには限界があることからSNS等の媒体を使って広げていくが課題である。令和8年度以降は自前のe-bikeの有効活用と収益向上のためレンタル事業も検討して行く必要がある。</p>								
	3年間の総事業費と年度ごと内訳	7,323千円	円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,093千円</td> <td>2,426千円</td> <td>2,804千円</td> </tr> </tbody> </table>	令和5年度	令和6年度	令和7年度	2,093千円	2,426千円
令和5年度	令和6年度	令和7年度							
2,093千円	2,426千円	2,804千円							
上記のうち市負担金	4,695千円	円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,815千円</td> <td>1,940千円</td> <td>1,940千円</td> </tr> </tbody> </table>	令和5年度	令和6年度	令和7年度	1,815千円	1,940千円	1,940千円
令和5年度	令和6年度	令和7年度							
1,815千円	1,940千円	1,940千円							

事業の名称	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bikeツアーの造成
-------	--------------------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・		はい			いいえ
協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・		はい			いいえ
お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！		はい			いいえ
(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだと思いましたか。(事業の必要性)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだと思いましたか。(費用対効果)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いましたか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		B			

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a	b	c	d
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	✓			
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a	b	c	d
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	✓			
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a	b	c	d
	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	✓			
自由意見		自己評価			
		A			

E : 20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
事業遂行に当たってのアドバイス、他行政との連携、マスコミ対策、事業許認可の申請、事業に協力していただいた自転車のあさひさんへの連絡と折衝、当日の運営等幅広い支援と協力をいただき事業を遂行することが出来た。	ツアーのコースやお土産等、地域ならではの視点で様々な提案をいただき、今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた。観光として非常に学ぶことが多かった。

F : 21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
こちらの事業が行きずまったり、遅れを生じた時に適宜アドバイスをいただき問題になる前に解決でき、改善点は特にありません。	適宜会議及び個別の打ち合わせを実施することにより円滑に事業を進めることができたため、改善点はありません。

G : 22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市民(団体)・行政の協力により1+1が2でなく3以上になることが良く解りました。この制度を積極的に活用して欲しいと思います。	市民(団体)・行政どちらかだけでは実現できない取り組みを両社の協働により実施することができるため、是非積極的に制度を活用してほしい。

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
本協働事業を通して自然の家の活用、e-bikeツアーの事業化に加え新たに椎茸事業を立ち上げ、城山観光協会の大きな資金源となり、事業の推進となってきている。	市外から人を呼び込み、地域に寄与するコンテンツとして育ててきていると感じるので継続して事業の実施をお願いしたい。

写真添付欄

コメント記載欄

年間を通じて楽しめる市内有数の  
観光・体験スポット～



このマップは城山地区を代表する里地里山が広がる市内有数の観光・体験スポットである。周辺には四季折々の花が咲き、ホテルも飛び交う魅力ある地域である。この中央に「城山自然の家」があり、ここを起点とした「城山自然の家を観光ゲートとして城山エリアでのe-bikeツアーの造成」を相模原市との市民協働事業として申請し認可された。この「城山自然の家」の近くにしいたけ業者を誘致して「城山おいしいたけ園」を開設し、プロジェクトは順調に推移している。

写真添付欄

コメント記載欄

【城山自然の家事業】



城山自然の家

地場産野菜販売



【城山自然の家】

観光案内所と共に、地場産野菜や工芸品などを販売している。また「城山おいしいたけ園」の事務所と共に、住民の憩いの場所として親しまれている。来場者は地場産野菜の購入者も加わり年々増加してきている。(開所は9か月間で土日)

写真添付欄

コメント記載欄

【e-bikeツアー事業】



e-bikeツアー

ツアー後の振り返り会



【e-bikeツアー】

協働事業開始の令和5年度は2日間の4回実施、令和6年度は3日間の6回、令和7年度は4日間の8回計画したが雨天中止となり結果6日間の6回の実施した。季節ごとにコースを変え、3月には梅の花見としいたけ園でのしいたけ摘み取り体験、6月は梅もぎ、10月はロングコースで小倉橋、上大島キャンプ場での古民家と野点体験、12月には紅葉スポット巡り等季節に合った内容として参加者に楽しんでもらった。

写真添付欄

コメント記載欄

【しいたけ事業】



おいしいたけ園

しいたけもぎ取り体験



【しいたけ事業】

城山観光協会の財務状況が厳しく、協働事業で交付金が無ければ協働事業終了後に「城山自然の家」の自主運営することが難しい。このことから、令和6年度からしいたけを購入イベントでの販売、加えて令和7年度にはしいたけ園を経営している会社を城山小松地区に誘致し、10月にハウスを建設、11月より生産・販売を行った。このことにより協働事業終了の令和8年度から自主財源で賄える目処が見ついた。「城山おいしいたけ園」のしいたけは、肉厚で軸太でおいしいとの評価をいただいている。

## 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください⇒	5
事業の名称	里山の自然を未来へつなげるための担い手育成事業	
団体の名称	NPO法人ふじの里山くらぶ	
事業担当課	藤野まちづくりセンター	
事業の概要	藤野地区を含む中山間地域では、少子高齢化が進み、これまで地域が担ってきた活動が困難になってきている。将来に向けて、良好な里山の環境を保全するための人材を育成するため、体験型のワークショップを開催し、中央区や南区、近隣から広く参加者を集める。参加者からボランティアを確保し、将来の担い手を発掘していく。	
具体的な取組みの状況	<p>■ 4月～7月：活動基盤の構築・初回のWS開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月：公式LINEを開設し、参加者の呼び込みを開始。</li> <li>・5月：「自然な草刈り体験ワークショップ」の企画・準備（※5/30予定は雨天のため順延）。</li> <li>・6月：【WS開催】自然な草刈り体験（6/29@沢井川 / 参加費無料 / 参加者5名）</li> <li>・7月：6月実施WSのレポート記事を作成し、WEBサイトにて公開。</li> </ul> <p>■ 8月～11月：秋の体験型WSの実施と検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8～9月：秋以降のコンテンツ企画および関係者調整。（※記録的な猛暑のため、参加者の安全を最優先し屋外イベントは開催自粛）</li> <li>・10月：「どんぐりホットケーキと里山の循環体験」の準備。</li> <li>・11月：【WS開催】どんぐりホットケーキと里山の循環体験（11/8@小淵の山 / 参加費無料 / 参加者8名）</li> <li>↳ 終了後、Instagramリール動画にてレポート公開。並行して次月の準備を実施。</li> </ul> <p>■ 12月～3月：事業の有料化・自立化へ向けた学習型・体験型WSの実施と検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月：【WS開催】山が呼吸し生き物がめぐる小道づくり（12/13@金剛山 / 参加費1,000円 / 参加者6名）</li> <li>↳ 終了後、Instagramリールにてレポート公開。初の有料開催を実現。</li> <li>・1月：過去3回の運営課題を振り返り、事業の自立化に向けて参加費を3,000円に引き上げる次期計画を策定。</li> <li>・2月：「野草摘みと野草の天ぷら体験」のプログラム企画・安全管理等の準備。</li> <li>・3月：【WS開催】野草摘みと野草の天ぷら体験（3/8@小淵の山 / 参加費3,000円 / 参加者16名）</li> <li>↳ 単価を大幅に引き上げたものの、これまでの情報発信の成果もあり過去最高の参加者数を記録。Instagramにてレポート公開。</li> </ul>	
役割分担	実施団体の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型ワークショップの企画・運営・集客</li> <li>・ボランティア組織の設立と運営</li> <li>・作業内容のレポート作成と公開</li> <li>・関係団体や自治会との調整</li> <li>・事業経費の負担</li> </ul>
	市の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR機会の提供（区民会議やまちづくり会議での調整）</li> <li>・自然環境に関する地域の課題情報の収集と提供</li> <li>・イベント開催場所の自治会への取次</li> </ul>
	市民ニーズに対応できた点	

事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の自然の恵みを活かした体験活動（食や散策など）を通じて、藤野地域ならではの暮らしの魅力や豊かさを提供できました。</li> <li>・川や山の整備活動を体験していただくことで、中山間地域が抱える環境保全の現状や課題について、参加者の深い理解と共感を得ることができました。</li> <li>・【課題と展望】参加者の多くが相模原市外にお住まいの方であったため、「市内住民の」担い手育成という点では課題が残りました。しかし、市外からの「関係人口の創出」には大きく寄与しており、今後はこのネットワークを市内・地域内へ波及させる仕組みづくりが求められます。</li> </ul>				
	<p>行政の効率化につながった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沢井川の草刈り整備において、民間団体と一般参加者が協働で行う運営体制（集客、安全な当日運営、地元との調整等）を確立しました。この実績をもとに、津久井土木事務所および藤野まちづくりセンターと協議を行い、令和9年度からの「市民美化アダプト制度」を活用した持続可能な河川整備の導入に向けた道筋をつけることができました。</li> <li>・山林整備において、「食の体験」を組み合わせたイベント形式が、参加者（潜在的な担い手）を効果的に増やす手段として極めて有用であることが実証されました。一般の人が山に入る機会を創出し、その中で手道具を用いた軽整備を行う仕組みは持続可能性が高く、将来的な登山道整備の補完機能としても期待できます。現在、令和8年中の登山道整備ワークショップの事業化に向けて、藤野観光協会と連携協議を進めています。</li> </ul>				
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。</p> <p>本事業の成果とノウハウは、令和7年度初頭に設立した任意団体「里地創生プロジェクト」へ引き継ぎました。同団体は、里山の環境再生および担い手育成（関係人口の創出）に特化した組織体制を敷いており、より迅速な意思決定とイベント開催頻度の向上を実現し、活動をさらに加速させていきます。また、社会的信用と事業の持続性をより高めるため、令和8年6月のNPO法人設立を目指し、現在相模原市にて認証手続きを進めています。</p>				
3年間の総事業費と年度ごと内訳	494,321	円	初年度	年度	年度
			494,321円	円	円
上記のうち市負担金	440,326	円	初年度	年度	年度
			440,326円	円	円

事業の名称	里山の自然を未来へつなげるための担い手育成事業
-------	-------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

<b>A：協働の基本原則・・・</b> 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	WEBサイトやInstagramを通じて活動レポートを定期的に公開し、情報発信に努めました。しかし、現在の閲覧数は1,000PV未満に留まっており、「広く市民全般に周知する」という点においては課題が残りました。今後は、SNSの活用スキルの向上や、他団体との連携など、より効果的な広報戦略の構築が必要であると認識しています。	A			
<b>B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・</b> お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	沢井川の整備にあたっては、藤野まちづくりセンターの強力なサポート(地元自治会長様への円滑な取次や、参加者用駐車場の手配など)をいただきました。行政が持つ地域との信頼関係やネットワークを活かしていただいたおかげで、地元との摩擦もなく、当日の運営・作業を安全かつスムーズに遂行することができました。	A			
<b>C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！</b> (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだだと思いますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだだと思いますか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	里地里山の担い手不足は全国共通の深刻な課題であり、単年度の事業展開で劇的な改善を図ることは容易ではありません。しかし、本事業を通じて「体験型イベントを通じた関係人口創出とマネタイズ」という具体的な活動ノウハウと集客実績を蓄積できたことは大きな成果です。将来的に地域の担い手不足がさらに深刻化した際、本事業で確立したモデルは、地域課題を解決するための極めて有効な手段になると確信しています。	A			

もし有用な利益になることを信じています。

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	地域の大学等教育機関との連携については、ワークショップの告知等に留まり、学生の参加や共同企画など、踏み込んだ協働関係の構築には至りませんでした。初年度ということもあり、まずは現場での安全な運営と実績作りという「活動基盤の確立」にリソースを集中せざるを得なかったことが主な要因です。今後はこの基盤をもとに、外部機関との連携強化に注力していきたいと考えています。	B			

E：20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
ワークショップの活動フィールド(山林や河川)が公共性の高い場所であったため、相模原市との「協働事業」として実施できたことは、団体および活動に対する社会的な信用(公共性)の担保に大きく寄与しました。結果として、地権者様や地域住民の方々との事前の合意形成や調整が非常にスムーズに進んだ点が、最大のメリットであったと感じています。	里山や河川など公共性が高く、住環境に近い場所を、ワークショップの開催場所としていたため、地域住民の目に触れる機会を多く持てたことは、地域に活動が浸透する一助になったと感じる。 当課としては、団体が作成したチラシを関係各課や公共施設、大学に配布・周知したことで、団体の活動を広く周知することに寄与できたと感じる。

F：21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
広報・連携活動において、各区の会議や大学等への情報提供に留まってしまった点が課題です。当団体のリソース不足により行政側が設定してくださった場に十分参加できなかったことも要因ですが、情報の「周知」から一歩踏み込み、各団体へ直接出向いて共同企画を提案するような「積極的な個別アプローチ体制」を、市と団体の双方で構築しきれなかった点は今後の改善点だと認識しています。	今回、担い手育成団体を立ち上げ、170人を超える方々が登録し、団体自ら企画した活動が実施されていたが、今後は、地域の活動を、より手助けできるよう働きかけていくことが改善点だと思ふ。

G：22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
行政との協働事業であっても、事業を牽引する「主体」はあくまで市民・団体側にあるという意識が重要です。地域課題の解決という目的を達成するために、行政の持つネットワークや公共性というリソースを最大限に(そしてありがたく)活用させていただく姿勢が不可欠です。公共の立場にある方々と対等に相談し、知恵を出し合いながら進められる貴重な機会を、ぜひ積極的に活用してください。	公共性のある取組でも、団体だけでは実行が難しいことも出てくると思います。 協働事業提案制度は、協働する部署が持つ強み(地域住民・他団体・他部署との繋がり、専門性のある知識)や補助金を最大限活用できる制度です。 また、行政と密接に関わることで、その後の団体の活動においてもメリットも大きいと思いますので、ぜひ協働事業にチャレンジしてみてください。

H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
なし	事業開始から1年で担い手団体をNPO法人化するほどの行動力と組織力を活かし、今後の藤野地区をはじめとする津久井地域全体での活躍とこれからの団体発展を切に願います。

写真添付欄



コメント記載欄

6/29 草刈り体験WS  
5年以上未整備、放置された河川敷。  
2-3mまで伸びたヨシの群生に風を通す草刈りを行いました。

写真添付欄



コメント記載欄

11/8 どんぐりホットケーキWS  
山で拾ったどんぐりをお湯で数回アク抜き→どんぐりを潰して米粉と水で生地を作る→地域の有機野菜と山で詰んだ平茸を入れてピザも作りました。

写真添付欄



コメント記載欄

12/13 山が呼吸し生き物が息づく小道作りWS  
放置された山林の再生として、山全体の藪化した箇所を草刈りや剪定で風通しを改善。  
斜面地に対して、丸太や石を使い、人が通れる道を作りました。

写真添付欄



コメント記載欄

3/8 野草摘みと野草の天ぷら体験WS  
山や道端に生えている野草を見つけ、それを摘んで米粉の天ぷらにして食べました。  
野草の解説を行い、三角ホーやミツグワを用いて登山道の整備も行いました。

## 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください→		6	
事業の名称	「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」			
団体の名称	特定非営利活動法人ここずっと			
事業担当課	地域包括ケア推進課			
事業の概要	積極的な取材・調査によって「ユニバーサル通信」における事例・情報紹介の紙面を豊かにし、発行頻度を増やし、配布対象を官民・市民に拡大して、市民のUD理解を深めて、共生社会の礎となる意識形成に資する。			
具体的な取組みの状況	<p>○「UDさがみはら」発行 A3二つ折り仕上がりA4サイズ 4P 音声ガイド各ページ（切り欠き2か所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1号（2024/7/25発行 3,000部、以後各号4,000部印刷）</li> <li>第2号（2024/11/25発行）</li> <li>第3号（2025/3/25発行）</li> </ul> </li> <li>令和7年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>第4号（2025/7/25発行）</li> <li>第5号（2025/11/30発行）</li> <li>第6号（2026/3/25発行）</li> </ul> </li> </ul>			
役割分担	実施団体の主な役割 取材・執筆・関連団体訪問等渉外活動			
	市の主な役割 関係課への調整 市関係機関への配架			
事業効果	市民ニーズに対応できた点 協働提案事業を始めたことでUD通信の定期的な発行ができ、ユニバーサルデザインを市民に知ってもらう機会が増えている。			
	行政の効率化につながった点 庁内のUDの取組を取材していただいたおかげで、庁内の取組を庁外へ発信できた。			
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。</p> <p>UDさがみはらの発行は市民への普及啓発が出来たため令和8年度で事業を終了する 本市で別途ユニバーサルデザインについての普及啓発活動を進めていき、ここずっととは、他課との調整等協力をしていく。</p>			
3年間の総事業費と年度ごと内訳	2,304,241 円	6年度	7年度	8年度
		924,579円	795,762円	583,900円
上記のうち市負担金	1,965,000 円	6年度	7年度	8年度
		797,000円	608,000円	560,000円

事業の名称	「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」
-------	---------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

<b>A：協働の基本原則・・・</b> 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	a	b	c	d
(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)		自己評価			
自由意見	【団体】基本的に行政の組織性と業務の達成手法とその指標について、理解できていなかったと思う。3年目を迎えて、市民活動をしてきた姿勢とは違う方法論と指標をもっているのではないかと拝察するに至ったが、そもそも組織に属した経験値が限られていたので、考えるヒントが得られなかった。 【市】本事業は最終年度となり、各団体の事業と協働事業の連携に関して改めて確認をする機会が多くあった。これまでの経験を通じて、協働の理解を深める重要性を再認識した。	B			
<b>B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・</b> お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)		自己評価			
自由意見	【団体】行政側の達成目標、求めるところを理解しようとする気持ちを強く持ったので、知ろうとするコミュニケーションに注意を払った。市民が議論する主体として立つのは難しいのではないかと思う。提案事業以上の大きな目標を見ることができれば違ったかもしれない。 【市】市と団体それぞれの役割分担について話し合いを重ねたが、一部認識の違いが見られ、事業の方向性についての調整が難しい局面もあった。	B			
<b>C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！</b> (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだと思えますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだったか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思えますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)		自己評価			
自由意見	【団体】これから求められる社会的変革はUDの思想なくしては立ち行かないと考える。AI技術の進化を前提として、UDの思想の枝葉と生まれる経済的効果もあると考えられる、社会が豊かになっていく道筋にUDの思想は欠かせない。 【市】ユニバーサルデザインへの考えを深めていることが「おぼろげながら」に	B			

【甲】ユニバーサルデザインのことを広げていくことが「98%のひとにやさしい都市」の実現に近づくと考える。

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	【団体】社会変革のための思想として今後ますます必要性が増していくところを思えば、助け合って課題を明らかにしていく必要性があったと思うし、特に高齢者にとっては、行政と一緒にアピールすることで理解が早くなったものと思う。	A			

E : 20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
UDにおける知見の年齢間ギャップは、事業着手時より課題と考えてきたが、それを教育委員会取材から記事化できたことはとても意義があった。教育行政的批判に流れることなく、時代の要請を反映した教育を垣間見て、UDの必然性を強く高齢者にアピールできたと思う	積極的に取材を行っていたため、そこから新しいテーマを入手して交流を広げていた。

F : 21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
情報を整理していくに際し、協働しているからこそ関係各課の支援が得られたと考えているが、やりとりしていくうちに、どんどん行政案内に近くなっていくのを、もう少し市民的な表現の方に引き寄せられるとよかった気がします。	民間企業への配布先を検討し、配布数を増やせたのではないかと思います。

G : 22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

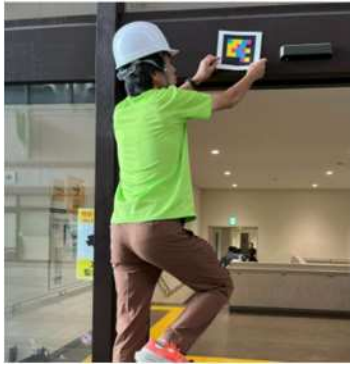
実施団体記載欄	事業担当課記載欄
行政の問題解決の仕方に、どうも、馴染めずに過ぎてしまいそうです。何か、合議できるやり口を見つけられるといいですね。	打合せ等しっかりと方向性や事業のすり合わせをした方がよい

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
仮に行政的手法と市民活動的手法というものがあるとすれば(例えば、行政にとっての市民は対象なのですが、市民活動にとっては、市民は仲間、相棒であります。行政と市民との関係は公平性を担保する統一的対応が必要でしようが、市民活動にとっては市民との間で起きてくる流動性、運動性が必要です)、その手法の違いが有機的に	

I : 24 取組の様子 (写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

ナビレンス貼付作業



相模大野にできたナビレンス通路



R7. 9. 22 ふくしまつりで大沼小とコラボ



R8. 2. 21 防災フェアでUDトーク体験会



ともいき広場オープン式典



ふくしまつりでともいき広場 (神奈川県) とコラボ



2026. 2. 8 月餅づくり講師・全盲の難波創太さん



UD料理教室「月餅づくり」

